

健やか親子 21（第 2 次）の推進

～2018 年度の推進協議会の活動～

研究分担者 三牧 正和

（帝京大学医学部小児科、健やか親子 21（第 2 次）幹事団体 日本小児科学会代表）

要旨

「すべての子どもの健やかに育つ社会」を目指して 2015 年（平成 27 年）度から 10 か年計画で始まった健やか親子 21（第 2 次）は、2018 年度で 4 年目が終了した。2019 年 3 月現在 87 の団体が健やか親子 21 推進協議会を構成して活動に参画しており、幹事団体である日本小児科学会の代表として、推進協議会全体の進捗管理と連携調整を行っている。第 2 次より課題の実行性を高めるために 4 つのテーマグループが設定され、各団体は希望するテーマグループに所属してテーマに関連する課題の啓発や解決を目指して活動している。2018 年度は、テーマグループごとに共通テーマを設定し、具体的な取り組みが展開された。グループ 1 は低出生体重児、妊娠中・育児中の喫煙、十代の自殺、児童虐待を、グループ 2 では妊娠前の虐待予防に始まり十代の自殺予防に至るまでの切れ目ない支援をテーマとして掲げた。グループ 3 では、女性のライフサイクルに応じた切れ目ない支援をテーマとし、グループ 4 では、「妊娠」を通して考える「健やか親子」と、「思春期」からみた「健やか親子 21」をテーマとした。いずれも、親子の心の問題が取り上げられた。合同会議を開催するなどして議論を深め、自殺（思春期・妊産婦含む）などについてのリーフレットを作成し、関係部署への啓発を図るなど、各グループでの取り組みが進められて成果物も生まれつつある。10 か年計画の後半においても、2019 年度に行われる中間評価を踏まえたうえで、国民運動計画「健やか親子 21」の団体内での周知に努めるとともに、団体間の連携の深化のもと国民への啓発を進めていくことが期待される。

A. 健やか親子 21（第 2 次）推進協議会の活

動テーマ・目的

「すべての子どもの健やかに育つ社会」を目指して 2015 年（平成 27 年）度から 10 か年計画で始まった健やか親子 21（第 2 次）は、2018 年度で 4 年目を迎えた。第 2 次より、課題の実行性を高めるために 4 つのテーマグループ（グループ 1：「国民への普及併発・情報発信等」、グループ 2：「育児支援等」、グループ 3：「児

童虐待防止・対応強化」、グループ 4：「調査研究やカウンセリング体制の充実・ガイドラインの作成等」）と民間企業による事務局と応援メンバーが設置された。2019 年 3 月現在 87 の団体が、幹事団体を日本小児科学会とした健やか親子 21 推進協議会を構成し、各団体が希望するテーマグループに所属し、テーマに関連する課題の啓発や解決を目指して活動している。

B. テーマグループの活動

2018 年度は、テーマグループごとに具体的

な共通テーマを設定し、成果物を目指した取り組みを展開した。グループ1は「低出生体重児」「妊娠中・育児中の喫煙」「十代の自殺」「児童虐待」、グループ2は「妊娠前の虐待予防に始まり十代の自殺予防に至るまでの切れ目ない支援」、グループ3は「女性のライフサイクルに応じた切れ目ない支援」、グループ4は「妊娠を通して考える健やか親子」「思春期からみた健やか親子21」をテーマとして掲げた。いずれのグループでも、親子の心の問題が取り上げられた。各グループは、メーリングリスト上で情報交換するとともに、それぞれミーティングを行って議論し、テーマに対する取り組みを展開した。推進協議会の幹事団体である日本小児科学会の代表として、グループ内及び協議会全体の進捗管理と、連携の調整を行った。

C. 結果（活動成果）

グループ1は、掲げたテーマに対する問題意識の共有のために、まずは国民運動計画である「健やか親子21」を国民に啓発することが大切だと考え、「健やか親子21」を紹介するポスターを作成した。今後全国の薬局などでの掲示を展開する。

グループ2は、構成団体同士の連携をさらに深化させるために、講演会や研修会を行う際の講師の推薦を行うシステムの構築を進めた。今後運用を進め、さらに他のテーマグループの参画団体でも活用することを視野においている。

グループ3は、虐待に対する各団体の取り組みを健やか親子21のホームページ上に集約して広報するとともに、グループ会議を開催して団体同士の連携を深めていく方針のもと、準備を進めている。また、健やか親子21のシンボルマーク「すこりん」の活用を徹底し、団体内や国民への周知を図ることとなった。

グループ4は、合同会議を開催するなどして議論を深めた。若い世代の自殺等についてのリーフレットを作成し、関係部署への啓発を図っている。

D. 考察（現状と課題）

健やか親子21は母子保健の根幹ともいえる国民全体の取り組みであるが、その認知度は高くない。そのためグループ1においては、まずは健やか親子21自体を紹介することを目指したポスターの作成から開始した。今後共通テーマとして掲げた各課題についてのポスターを作成して、各論についての啓発を行っていききたいと考えている。また、推進協議会の参加団体内でも、健やか親子21の周知が十分でない現状も指摘されている。そのため、テーマグループ3や4においては、2018年度の目標として団体内での周知、取り組みの重要性の認識の共有を図ることに力点が置かれた。グループ4で作成されたリーフレットも、主に推進協議会の団体や構成員にむけたメッセージとなっているが、子どもの心身の健康、親子の心の問題に多くの団体に取り組んでいることを国民に示すうえでも、大きな意義のある取り組みだと考える。

健やか親子21（第2次）において掲げられた課題の達成に向けては、医療のみならず、保険、福祉、教育、労働など、幅広い分野から運動に参画することが必要となる。そのため、推進協議会は多様な職種からなる団体で構成されている。活動の内容は多岐にわたるため、グループ毎に共通テーマに取り組むのには困難を伴う。実際、意見の集約は容易ではなく、団体内での調整や承認を得る過程にも時間がかかり、必ずしも迅速な対応が実現できているとはいえない。参加団体内での「健やか親子21」

の活動の重要性の認識をさらに高める必要がある。幹事団体である日本小児科学会では、2018年度に「健やか親子21委員会」が新しく設置されたため、健やか親子21の活動が益々推進されることが期待される。また、各団体の専門性を活かした講師派遣を目指したテーマグループ2の取り組み等を通して、団体間の連携を一層深め、それぞれの特性や専門性などの強みを活かした活動に繋げていきたい。

現在、健やか親子21（第2次）が目標として掲げた指標に対する参加団体の取り組み状況を調査しており、多くの団体が連携して解決にむかって活動する課題の抽出も行っている。推進協議会としては、テーマグループの枠を越えた連携も目指していきたいと考えている。さらに、厚生労働省母子保健課をはじめとした行政や応援メンバーの企業との連携も強化し、子どもの健康の推進を目指していきたい。

E. 結論

2018年度で4年目が終了した健やか親子21（第2次）では、各グループでの取り組みが進められて成果物も生まれつつあり、5年目を迎える2019年度には中間評価が行われる。中間評価の結果を踏まえたうえで、10か年計画の後半においても、国民運動計画「健やか親子21」の団体内での周知とともに、団体間の連携の深化のもと国民への啓発を進めていくことが期待される。

【参考資料】

厚生労働省. 健やか親子21推進協議会参画団体及び応援メンバーの取組状況について
https://www.mhlw.go.jp/stf/sukoyakasoukai_18.html

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし